

みなとタウンフォーラム・第9グループ
福祉・保健分野

令和2(2020)年3月23日

みなとタウンフォーラム第9グループ [メンバー]

飯塚 弘幸 小黒 敏朗 幸田 千栄子
佐藤 恭彦 八木 嘉也

※メンバーは五十音順



提言にあたって

第9グループ【福祉・保健分野】

私たち第9グループは、福祉・保健分野について、メンバーの興味・関心に基づき、「高齢者支援の充実」、「生活困窮者の支援」、「健康の増進」の3つのテーマに分け、全8回にわたり、グループ会議で議論を重ねてきました。

私たちは、前述した3つのテーマについて、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活を送ることのできるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組や、生活困窮者の自立支援に向けた取組、健診（検診）の受診率向上や受動喫煙防止対策に関する取組など、港区の現状と課題を確認しました。

一方、区民目線を持つメンバーからは、高齢者の働く場所や活躍できる場所が不十分であることや、生活困窮に対するネガティブなイメージがあること、健診等を受けやすい環境づくりとターゲットの明確化が必要であることなど、それぞれのテーマにおいて日頃感じている様々な課題を共有しました。

港区の過去10年における年齢3区分別人

口推移を調べると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）及び老年人口（65歳以上）のいずれも増加しており、将来人口推計をみても令和8（2026）年度には30万人を突破することが推計されているなど、幅広い世代の区民に対して福祉・保健分野のニーズはますます高まると予想されます。

私たちは、次期港区基本計画の計画最終年度末（令和8（2026）年度末）に向けて、高齢者が地域の中で元気に活躍し、生活困窮に対する偏見がなく、誰もが健康づくりに取り組める環境がより一層整っているまちを実現したい、との思いで意見を交わし、これまでの議論を踏まえ、第9グループの提言として取りまとめました。

この提言が、令和3（2021）年度からの次期港区基本計画に反映され、高齢者や生活困窮者が安心して生活を送ることができ、区民誰もが健康に暮らし続けることのできるまちになることを期待します。

提言の体系

テーマ	提言内容（具体的な事業）
高齢者支援の充実	各町会等への出張教室・出前講座
	高齢者福祉施設の利便性の向上
	参加者層の増加を狙った分野横断的なイベントの開催
	公衆浴場の設置・活用
	「つどえるカフェ『みかんの輪』」の導入
	飲食店等へ認知症に理解のある人材の配置
	登録制による行政サービスの情報配信
生活困窮者の支援	生活困窮者の支援先等に関するPR動画の製作・配信
	生活困窮者と求人募集中の事業者とのマッチングアプリの製作
	介護が必要な生活困窮者も入居できる特養多床室の設置
	自立支援に関する相談員を区民が集まりやすい身近な場所へ派遣
	悩みを聞いてもらえるイメージのある施設などと連携した相談体制の構築
	生活困窮のことも含めた何でも相談できる総合相談窓口の設置
健康の増進	映像配信を活用した区民の健康づくりに資する取組の周知・啓発
	区民の医療関連情報を集約し活用できるシステムづくり
	健診や予防接種の機会をより多く創出するための環境づくり
	多くの区民が参加するイベントと連携して健康づくりの機会の提供
	子どもから高齢者までがいいききと元気に暮らせるように、誰もが一緒に集う世代間交流の場の設置

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

テーマ① 高齢者支援の充実

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

- 高齢者が、地域の中で、老若男女問わず様々な人との交流を通じて元気に活躍し、不安や悩みを気軽に相談できる環境が整っている。

実現に向けた課題

- 高齢者が働く場所や活躍できる場所が不十分
- 要介護者を少なくする取組や自宅で看取ることのできる支援が必要
- 若い年代のボランティアが少ない。
- 相談窓口や講座、活動の周知を図る必要がある。

取組の方向性

- 仕事やボランティア活動の場づくりなどを推進することにより、高齢者と地域との接点をつくることで、人と人との交流を創出する。
- 高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生きがいを持って暮らすことができるように、高齢者支援に関心のある人材や団体と連携し、関連する取組の周知・PRを図る。

具体的な事業

・各町会等への出張教室・出前講座

各町会等へ健康づくりの専門家を派遣して、教室や講座を開催する機会を設ける。

・高齢者福祉施設の利便性の向上

高齢者福祉施設をより利用しやすいものとするために、施設の利用方法等の改善や周知など、区民の利便性を高める方法を検討する。また、居住している近隣地区の高齢者施設や公衆浴場などに行きやすくするように、ちいばすルートを再検討する。

・参加者層の増加を狙った分野横断的なイベントの開催

高齢者のみを対象とするのではなく、親子の参加も見込めるように、防災訓練や健康教室と運動会を組み合わせるなど、分野横断的なイベントを開催する。

・公衆浴場の設置・活用

高齢者の交流の場となるように、公衆浴場の設置及び活用と利用しやすい環境づくりを推進する。

・「つどえるカフェ『みかんの輪』」の導入

協力企業またはビル管理会社などを拠点として、オレンジリング保持者をスタッフに配置、介護施設に配車・送迎協力を求め、拠点となる場所で就労やボランティアを行えるような仕組みを一例とする、高齢者と住民、民間企業などのつながりをつくる仕組みを導入する。

・飲食店等へ認知症に理解のある人材の配置

認知症に理解のある環境づくりを推進するため、飲食店等へ認知症に理解のある人材を配置する。

・登録制による行政サービスの情報配信

区民が高齢者関連や子育て関連の情報を希望して登録すると、該当者に案内を届けるような仕組みを導入する。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- ・高齢者福祉関連施設を整備する際に、計画段階から区民が参画する。
- ・「みんなとオレンジカフェ」のようにボランティアとして協力する。
- ・高齢者が利用できる区の行政サービスについて、町会やコミュニティ内で情報共有する。

テーマ② 生活困窮者の支援

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

- 生活困窮者に対して偏見がなくみんながともに暮らせるまち
- 生活困窮者が自立して生活できるまち

実現に向けた課題

- 生活困窮に対するネガティブなイメージがある。
- 生活困窮者の自立支援に向けたきっかけづくり、または、職場環境が不十分
- 相談窓口気軽にいきにくい。
- 日常生活の買い物がしにくい。
- ひきこもり状態の人や、老々介護に直面している人、一人暮らしの認知症の人などは生活困窮に至る可能性が考えられるため、予防策となる支援が必要である。

取組の方向性

- 生活困窮者が「困った」と言える環境づくりと対応
- 気軽に集まれて情報交換できるような場の設置
- 買い物弱者のための、交通手段を含めた利便性の確保
- 老々介護の人等が相談しやすい窓口の設置

具体的な事業

・生活困窮者の支援先等に関するPR動画の製作・配信

インターネットによる動画共有サービスで配信可能なPR動画を製作するなど、生活困窮者の支援先等に関する情報を配信する。

・生活困窮者と求人募集中の事業者とのマッチングアプリの製作

生活困窮者が就労に結びつきやすくなる環境づくりを図るため、求人募集中の事業者とのマッチングアプリを製作する。

・介護が必要な生活困窮者も入居できる特養多床室の設置

介護の必要な生活困窮者がより入居しやすい特養多床室を設置する。

・自立支援に関する相談員を区民が集まりやすい身近な場所へ派遣

自立支援に関する相談員が、区民が集まりやすい身近な場所に出向いて、まだ支援につながっていない人を適切な支援に結び付ける。

・悩みを聞いてもらえるイメージのある施設などと連携した相談体制の構築

悩みを聞いてもらえるイメージのある場所や施設と区が連携し、相談体制の充実を図る。

・生活困窮のことを含めた何でも相談できる窓口の設置

自らが生活困窮状態にあることを知られないように、生活困窮専用の窓口ではなく、何でも相談できる窓口を設置する。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- ・生活困窮者の支援先等に関するPR活動に協力・参加する。
- ・誰もが立ち寄りやすいフリーマーケット、茶話会等の開催に協力する。
- ・経済的支援の必要な人のための住居を建設する際に区民も参画する。
- ・何でも相談できるように、日ごろから身近な人との関係づくりを築いておく。

テーマ③ 健康の増進

計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

- 健診機会の充実や区民の医療関連情報の集約などを図ることで、誰もが健康づくりに取り組める環境がより一層整っているまち

実現に向けた課題

- 働き盛り世代の人が病気になった時や障害を抱えた時、がん治療後など、療養中・療養後の支援が必要
- 健診やがん検診、予防接種などの受けやすい環境づくりと、より受けてもらいたいターゲット（専業主婦や子ども）の明確化とその取組が必要
- 健診やがん検診、歩きたばこ禁止など、健康の増進に関する既存の取組における周知啓発が必要
- 仲間とともに健康づくりができる活動機会が少ない。
- がん患者や障害を抱えた人に対する理解不足、死生観を見直す必要もある。
- 健康関連施設における人材の不足、また質にも課題がみられる。

取組の方向性

- 療養中・療養後の支援
- 健診やがん検診、予防接種などを受けやすい環境づくりとターゲットの明確化
- 健康の増進に関する既存の取組の充実及び周知
- 人生の最期まで自分らしく健康に過ごすための支援

具体的な事業

- **映像配信を活用した区民の健康づくりに資する取組の周知・啓発**

インターネットによる動画共有サービスで配信可能な動画を製作するなど、健診や感染症・介護予防についての周知・啓発を図る。

- **区民の医療関連情報を集約し活用できるシステムづくり**

区民の医療関連情報を集約し、健診や予防接種、かかりつけ医に受診の際に活用したりするシステムづくりを図る。

- **健診や予防接種の機会をより多く創出するための環境づくり**

地域に健診の出張サービスを提供したり、幼稚園や小学校、中学校などでの予防接種の集団実施を行う取組みを推進する。

- **多くの区民が参加するイベントと連携して健康づくりの機会の提供**

魅力あるイベントにおいて、健康相談コーナーや血圧測定コーナーなどを設置し、健康づくりの機会を提供する。

- **誰もが一緒に集う世代間交流の場の設置**

子どもから高齢者までがいきいきと元気に暮らせるように、世代間交流の場の常設を検討する。

参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- 一つひとつの事業を区が企画・立案する時に、子どもから高齢者まで幅広い年代の区民が参画する。また、若い人が中心に企画立案・実施を行う。
- 健康づくり関連の機会・イベントの時に、ボランティアとして協力する。

開催経過

第9グループ【福祉・保健分野】

回数	開催日時	内容
第1回	令和元年9月20日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・事務局紹介・グループ会議の進め方について・分野における現状と課題について・リーダー、サブリーダーの選出・検討テーマの選定
第2回	令和元年10月9日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第1回グループ会議の振り返り・検討テーマ「高齢者支援の充実」について
第3回	令和元年10月23日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第2回グループ会議の振り返り・検討テーマ「高齢者支援の充実」について
第4回	令和元年11月6日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第3回グループ会議の振り返り・検討テーマ「生活困窮者の支援」について
第5回	令和元年11月22日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第4回グループ会議の振り返り・検討テーマ「生活困窮者の支援」について
第6回	令和元年12月9日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第5回グループ会議の振り返り・検討テーマ「健康の増進」について
第7回	令和元年12月25日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第6回グループ会議の振り返り・検討テーマ「健康の増進」について
第8回	令和2年1月16日(木) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none">・第7回グループ会議の振り返り・提言内容の確認について